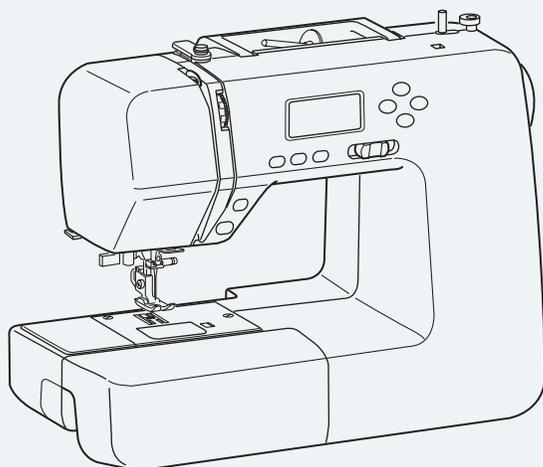


取扱説明書



JANOME

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示		警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。		注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
----------------	---	---	---	---

本文中の図記号の意味		△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

	警告	感電・火災の原因になります。
	禁止	ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は5℃～35℃です。
	禁止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	禁止	電源コードやフットコントローラーのコードを傷つけたり、加工したり、はさみ込んだり、たばねたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、重い物をのせたり、高温部に近づけたりしないでください。 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
	必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
	必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

	注意	感電・火災・けがの原因になります。
	禁止	めい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
	禁止	ミシンの通風口はふさがないでください。
	禁止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
	注意	お子様でご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、片手でさげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。
	必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、めいに合ったものをご使用ください。
	必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	必ず実行	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
	必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
	必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

	注意	感電・火災・けがの原因になります。
	分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
	接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はすみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	禁止	このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
	禁止	曲がった針や先つぶれた針は、ご使用にならないでください。

★ご注意

本機種ではジグザグぬい（模様07）の「ぬい目の幅」は、初期値5.0としております。

これは付属のたち目かがり専用「C押さえ」で、たち目かがりをす
る際に、ジグザグぬいを選択されても、針が「C押さえ」の針金に
あたるのを防ぐ目的があります。

ジグザグぬい（模様07）で、「A押さえ」を使用される場合は、
試しぬいをして、ぬい縮みが出ないように、「ぬい目の幅」や「ぬい
目のあかさ」を調節して、ご使用ください。

・薄地の場合で、ぬい目の幅（3.0）、ぬい目のあかさ（2.0）が目
安です。

※ 詳しくは、取扱説明書の25、26ページをごらんください。

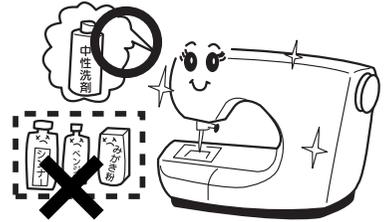
目 次

◎お取り扱いについてのお願い	3	●針板ガイドラインの利用	22
◎各部のなまえ	4	●ぬい目のあらさをかえるとき	23
◎補助テーブル	5	●針位置をかえるとき	23
◎標準付属品と収納場所	5	●直線状のぬい目	24
◎基本操作	6～20	●ジグザグぬい	25
●電源のつなぎ方	6	★ぬい目の幅・あらさをかえるとき	25
★スタート/ストップボタン使用のとき	6	●たち目かがり	26
★フットコントローラー使用のとき	6	●トリコットぬい (三点ジグザグ)	27
●スタート/ストップボタン	7	●ボタンホール	28～31
●速さの調節の仕方	7	★ボタンホールの種類	28
★スピードコントロールつまみ	7	★ボタンホール10(ボックス)のぬい	28～30
★フットコントローラー	7	★ボタンホール重ねぬい	30
●操作ボタンの主なはたらき	8～9	★ぬい目の幅・あらさをかえるとき	31
●送り歯のさげ方	10	★ボタンホール11、12のぬい	31
●押さえの取りかえ方	10	●芯入りボタンホール	32
●押さえホルダーの外し方、付け方	11	●ボタン付け	33
●押さえ上げ	11	●ファスナー付け	34～35
●糸調子の合わせ方	12	●まつりぬい	36
★自動糸調子	12	◎応用ぬい	37～39
★マニュアル糸調子	12	●ピンタック	37
●針の取りかえ方	13	●パッチワーク	37
●布に適した糸や針を選ぶ目安	13	●シェルタック	38
●下糸の準備をしましょう	14～16	●ファゴティング	38
★ボビンを取り出します	14	●アップリケ	39
★糸こまをセットします	14	●スカラップ	39
★ボビンに糸を巻きます	15	◎ミシンのお手入れ	40
★ボビンを内がまにセットします	16	●かまと送り歯の掃除	40
●上糸の準備をしましょう	17～19	●内がまと針板の組み付け	40
★上糸のかけ方	17	◎こんな表示が出た場合	41
★糸通しの使い方	18	●表示画面の対処方法	41
★下糸を引きあげます	19	●ブザー音の種類	41
●表示画面の説明	20	◎ミシンの調子が悪いときの直し方	42～44
●模様の選びかた	20		
◎実用ぬい	21～36		
●直線ぬい	21～22		
★ぬい始め	21		
★厚手の布端のぬい始め	21		
★ぬい方向の変更	21		
★ぬい終わり	22		

◎お取り扱いについてのお願い

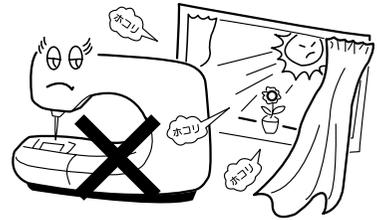
◇ご使用前に

- ① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使用前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

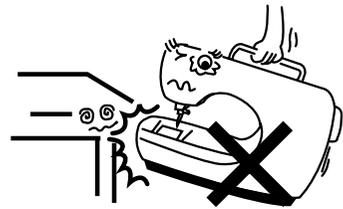


◇いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



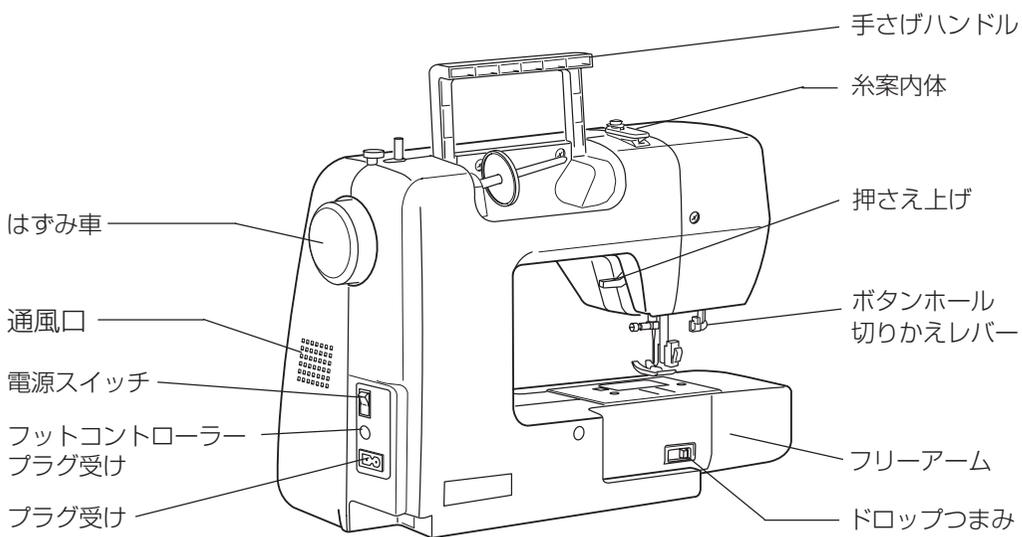
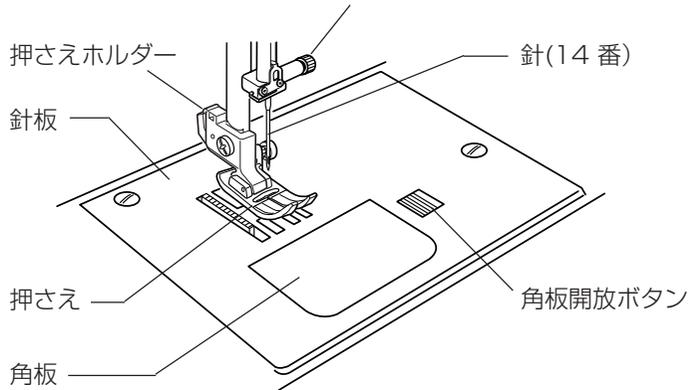
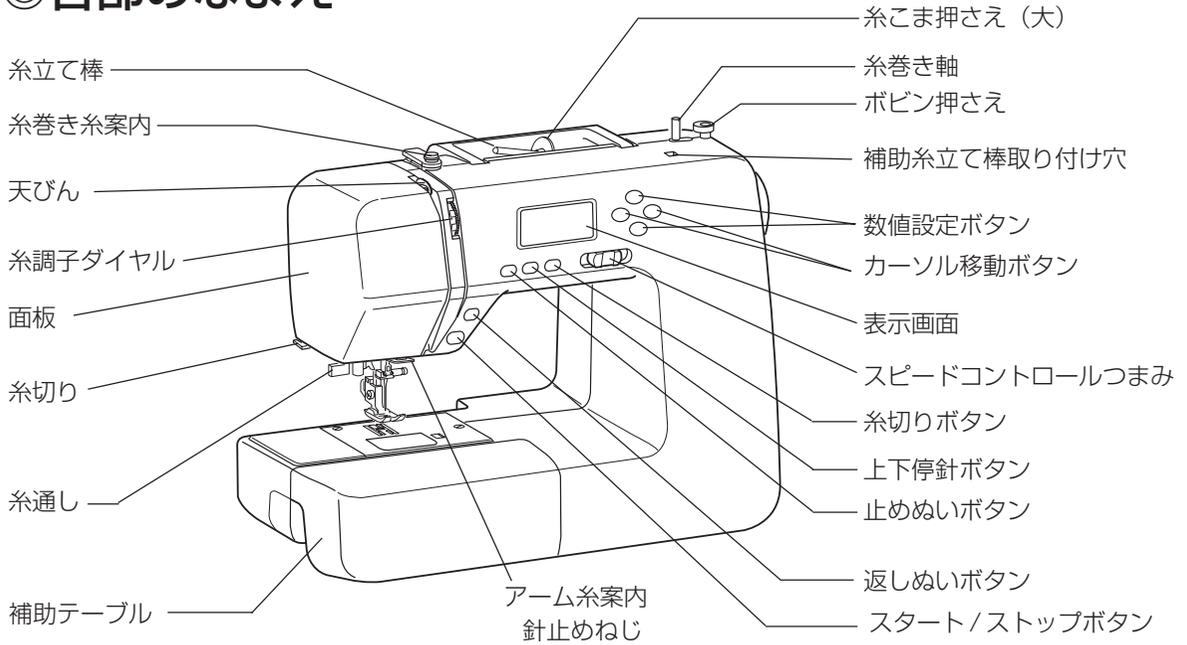
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。



◇修理・調整についてのご案内

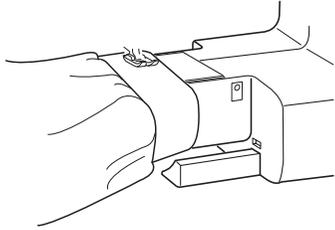
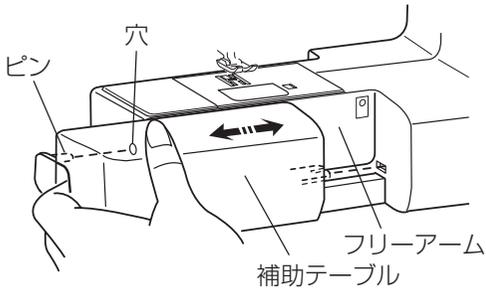
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(42～44ページ)により点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえ



※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

◎補助テーブル



【補助テーブルの外し方】

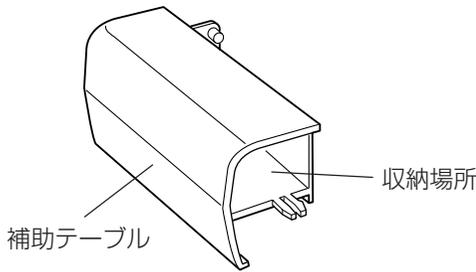
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

◎標準付属品と収納場所



補助テーブルの中に、押さえ等の小物が収納できます。

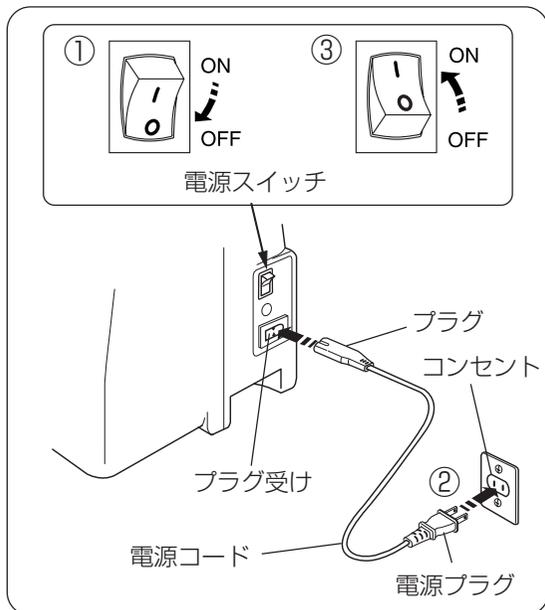
<p>A: 基本押さえ ※ミシンの押さえホルダーに付いています。</p>	<p>C: たち目がかり押さえ</p>	<p>E: ファスナー押さえ</p>	<p>F: サテン押さえ</p>	<p>G: まつりぬい押さえ</p>	<p>電源コード</p>
<p>R: ボタンホール押さえ</p>	<p>糸こま押さえ (大) ※ミシンの糸立て棒に付いています。</p>	<p>ボビン [4個] ※1個は、ミシンの内がまに入っています。</p>	<p>針 ・14番…3本</p>	<p>フットコントローラー ※モデルによりオプションになります。</p>	
<p>補助糸立て棒</p>	<p>糸こま押さえ (小)</p>	<p>シームリッパー</p>	<p>ミシンカバー</p>	<p>取扱説明書</p>	
<p>フェルト</p>	<p>糸こま受け台</p>	<p>ミシンブラシ</p>		<p>説明DVD</p>	
<p>ドライバー</p>					

◎基本操作

●電源のつなぎ方

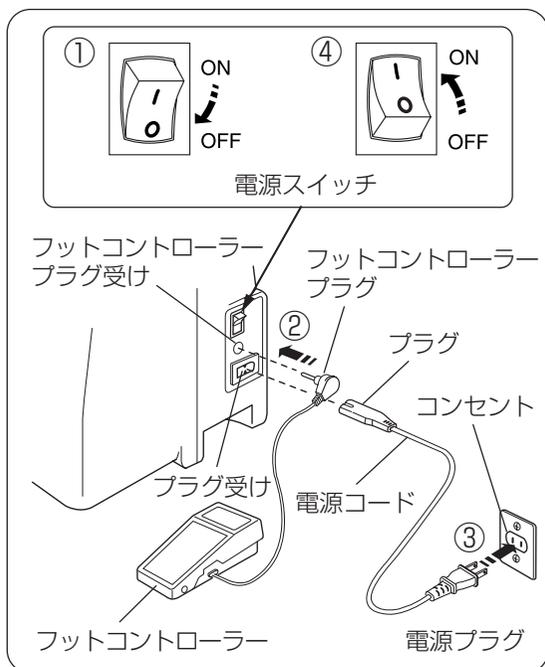
⚠ 警告

- ・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因になります。
- ・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因になります。



★スタート/ストップボタン使用のとき

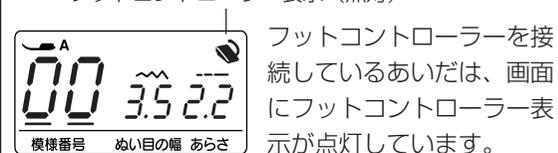
- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
 - ② 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - ③ 電源スイッチを「ON」(入) にします。
- ※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。



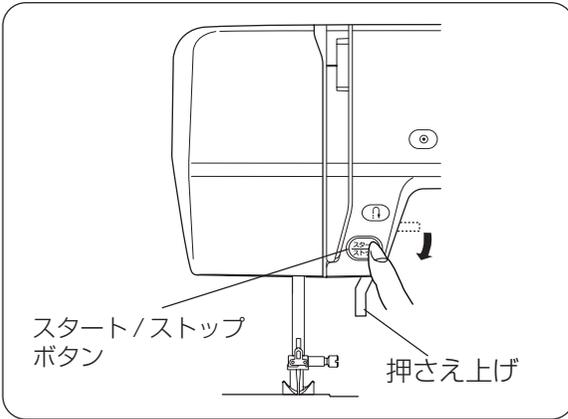
★フットコントローラー使用のとき

- ※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。
- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
 - ② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
 - ③ 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

フットコントローラー表示 (点灯)



●スタート/ストップボタン



押さえ上げをさげてボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。もう一度押すとミシンは止まります。(通常は、針が上の位置で止まります。)

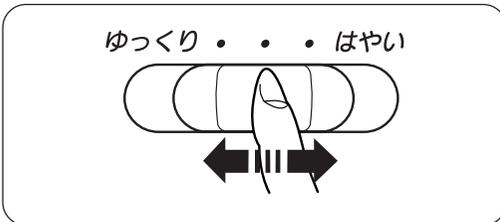
※スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ(手をはなすまで)は、ミシンは低速で動きます。

※フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

●速さの調節の仕方

ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

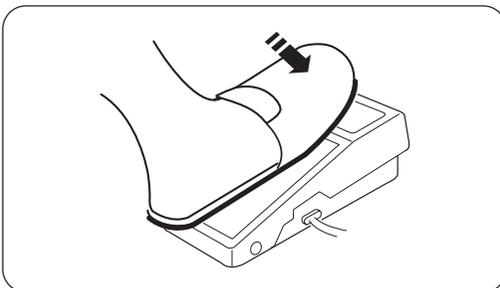
★スピードコントロールつまみ



スピードコントロールつまみは、スタート/ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。つまみの位置が右側になるほど速くなります。

※フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱい踏み込んだときの最高速度を調節できます。

★フットコントローラー



※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節できます。

- ・深く踏む→速くなる。
- ・浅く踏む→遅くなる。

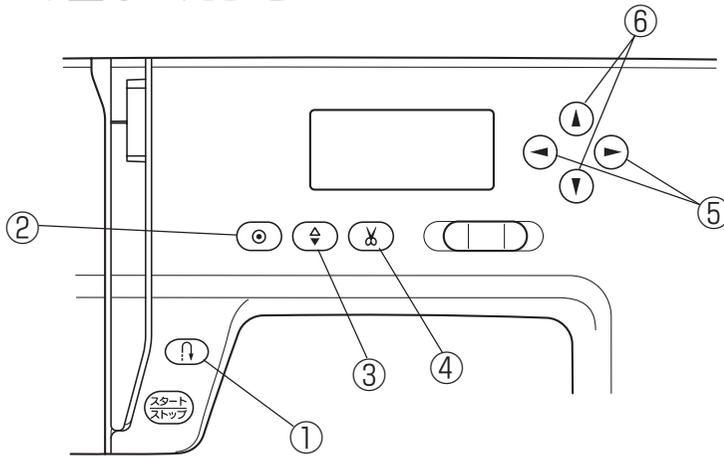
※スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置(最高速)にして、踏みかげんで調節してください。

初心者の方が細かいものをぬうときなどは低速側にしておく、フットコントローラーをいっぱい踏み込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

⚠ 注意

- ・フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因になります。
- ・フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けが・故障の原因になります。

●操作ボタンの主なはたらき



【運転中の返しぬい】

①返しぬいボタン



模様 $\begin{matrix} 00 \\ | \\ \text{巾} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 01 \\ | \\ \text{巾} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 07 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 08 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ は、ぬっている途中でボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをします。
その他の模様の場合、ボタンを押すとその位置で止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】

(フットコントローラーを接続していないときのみ)

模様 $\begin{matrix} 00 \\ | \\ \text{巾} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 01 \\ | \\ \text{巾} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 07 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 08 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはずすと止まります。

②止めぬいボタン



模様 $\begin{matrix} 00 \\ | \\ \text{巾} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 01 \\ | \\ \text{巾} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 07 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 08 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ は、ボタンを押すとその位置で止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様の場合、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。
※ぬう前にボタンを押しておく、模様を1つだけぬって自動的に止まります。

③上下停針ボタン

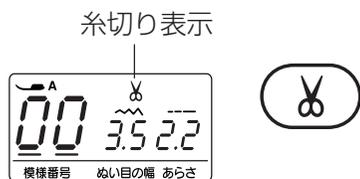


ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

※上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。(電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。)

※下位置に切りかえておいても、糸切り後と模様 ($\begin{matrix} 10 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 11 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$ $\begin{matrix} 12 \\ \text{ミシン} \end{matrix}$) は、ぬい終わったときには、上位置で止まります。

④糸切りボタン



ぬい終わったあとに糸切りボタンを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。

※糸切り動作中は、糸切り表示が点滅します。

【糸切り記憶】

模様を選んで、糸切りボタンを長く押し、表示画面に糸切り表示を点灯させると、糸切りを記憶をすることができます。

糸切り記憶をしておくと、ぬい終わりに止めぬいが入っ

ている模様 () は、ぬい終わったあと糸切りボタンを押さなくても自動的に糸切りが行われます。

また、その他の模様も止めぬいボタンまたは返しぬいボタンを押して、ぬい終わりに止めぬいを入れると、ぬい終わってから自動的に糸切りが行われます。

※ぬい終わりに止めぬいを行う方法は、8ページの返しぬいボタンと止めぬいボタンをごらんください。

【糸切り記憶の解除】

糸切りボタンを長く押し、糸切り表示を消します。

【糸切りの注意事項】

1. 30番および30番より太い糸、または特殊糸を切るときには面板に付いている糸切りを使用してください。
2. 糸切り後は、下糸は引き出さなくても、ぬうことができます。
3. 糸こまの糸残りが少ないものは、使用しないでください。糸がらみなどの原因になります。
4. 糸切り部に糸くすがたまると故障の原因になりますので、「ミシンのお手入れ」を参考に、糸くすを取り除いてください。(40ページをごらんください。)
5. 糸が切れず糸がからんでしまった場合は、電源を切り、針板を外して、からんでいる糸を取り除いてください。(40ページをごらんください。)

⑤カーソル移動ボタン



モード (模様、ぬい目の幅、ぬい目のあらさ) を設定するときは、  ボタンを押します。

※  左ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。

※  右ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

⑥数値設定ボタン

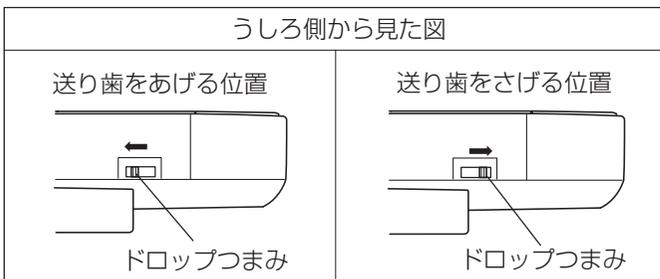


モードの数値を変更するときは、  ボタンを押します。

※  ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。

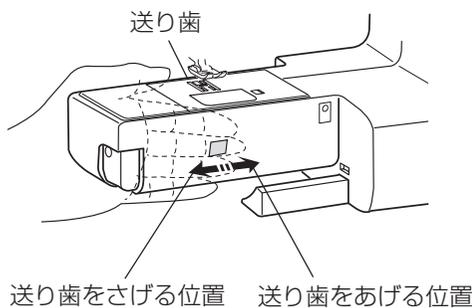
※  ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

●送り歯のさげ方



ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯をさげます。

※終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

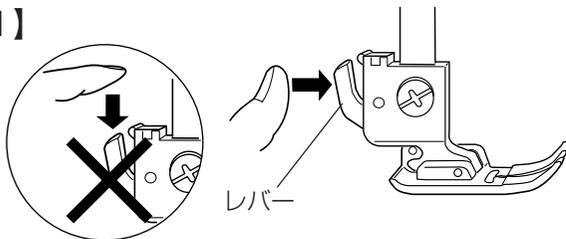


●押さえの取りかえ方

⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行ってください。押さえは、模様にあったものをご使用ください。押さえが合っていないと針が押さえにあたり、けがの原因になります。

【1】



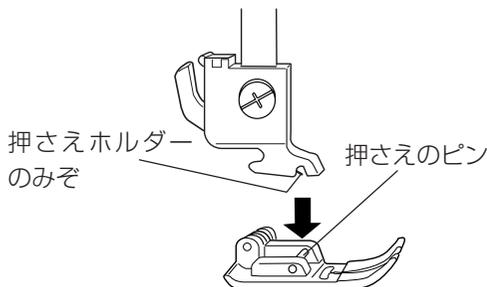
【1】 外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

※レバーを上から押すと、故障の原因になります。

※ 押さえ上げのあげさは、11ページをごらんください。

【2】



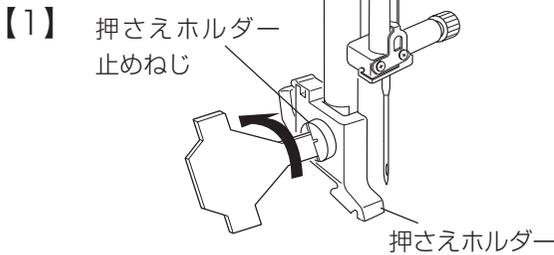
【2】 付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーの外し方、付け方

⚠ 注意

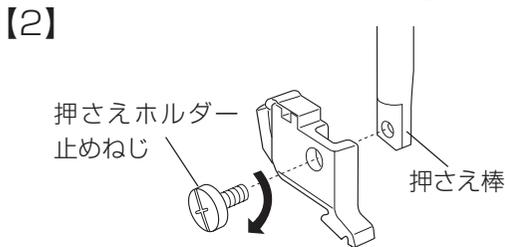
押さえホルダーの取り外し、取り付けをするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



※ミシンのお手入れなどのときに外します。

【1】 外し方

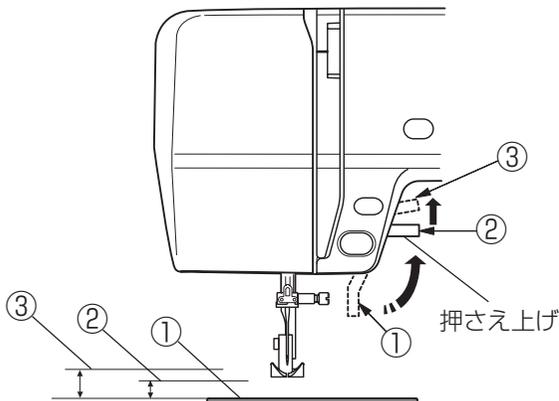
押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。



【2】 付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさをします。押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。厚い布を入れるときにお使いください。

- ①さげた位置ぬいときには、さげておきます。
- ②普通にあげた位置... 布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
- ③さらにあげた位置... 厚い布が入れやすくなります。

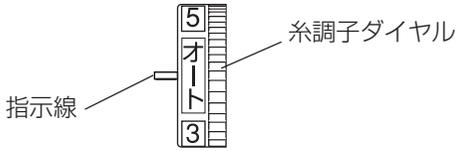
押さえ表示 (点滅)



※押さえ上げをさげないでミシンをスタートさせようとするとう安全装置がはたらいミシンがスタートできないようになっています。このとき表示画面の押さえ表示が点滅します。押さえ上げをさげてスタートさせてください。

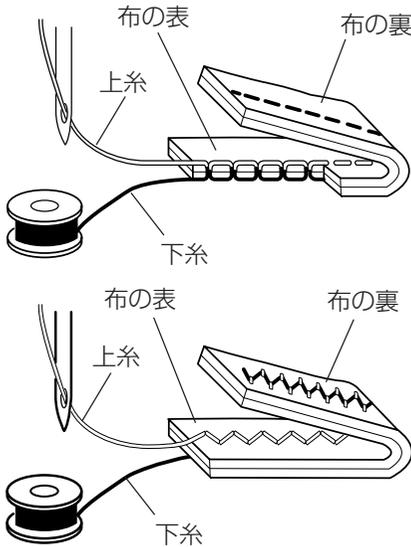
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランス良くぬえるように、自動セットされます。

【1】



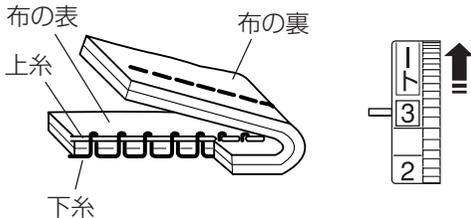
【1】 バランスのとれた糸調子

※直線ぬいときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

※ジグザグぬいときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

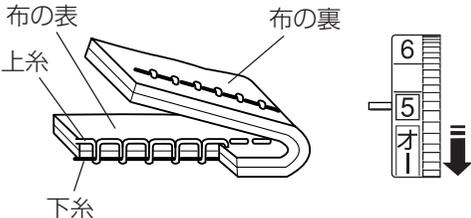
【2】



糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

【3】



【2】 上糸が強すぎる時

下糸が布の表に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【3】 上糸が弱すぎる時

上糸が布の裏に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

《布地の裏側がタオル地のようなになるのは》

左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなになるのは上糸の調子が弱い、上糸のかけ方がまちがっています。

17ページをごらんの上、正しくかけ直してください。

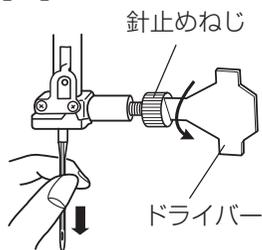
また、上糸調子の調節は上図を参考にしてください。

●針の取りかえ方

⚠ 注意

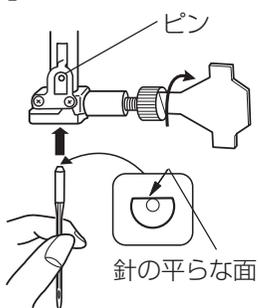
針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因になります。

【1】

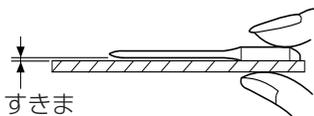


電源スイッチ

【2】



【3】



※針をあげ、押さえ上げを下げます。

【1】外し方

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物(針板など)に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90番	9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	絹糸 50番 綿糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿糸 30番	16番

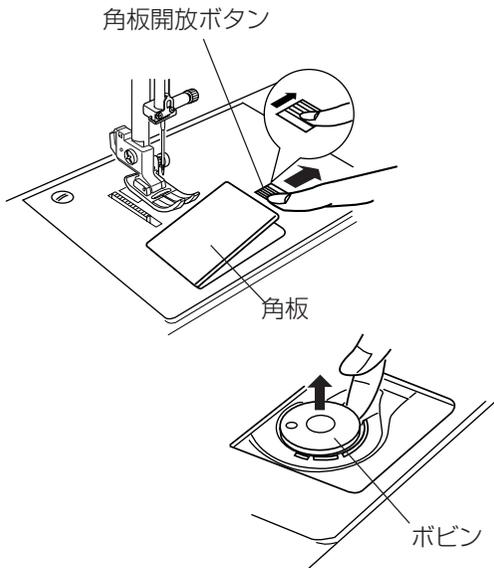
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に針と糸を選び、試しめいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目とびしやすい布地などには、ジャンメブルー針(オプション)を使用すると目とびの防止効果があります。

●下糸の準備をしましょう

★ボビンを取り出します

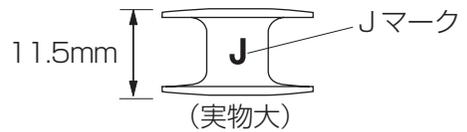


※ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

お願い

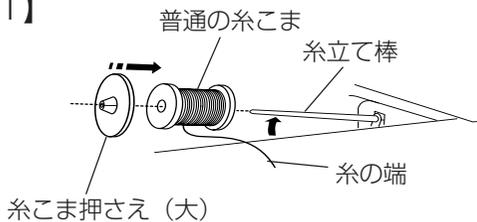
ボビンは当社専用の J マーク付きプラスチックボビンをの使用してください。
(お買い上げの販売店へご相談ください。)



金属ボビンは使用しないでください。
かまにマグネットを使用しているため、糸調子が出なかったり、故障の原因になります。

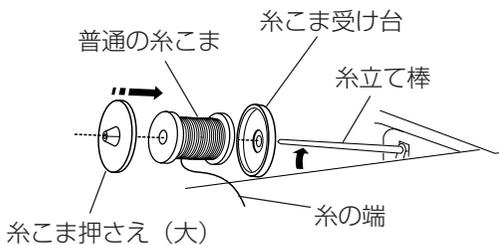
★糸こまをセットします

【1】



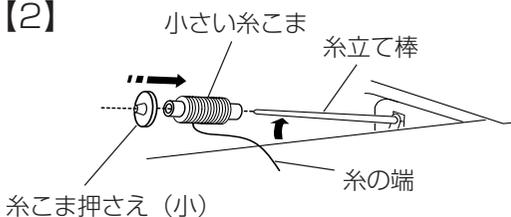
【1】 普通の糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前が出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ (大) で糸こまを押さえます。



※糸が外れる場合は、糸こまの下に糸こま受け台をセットしてください。

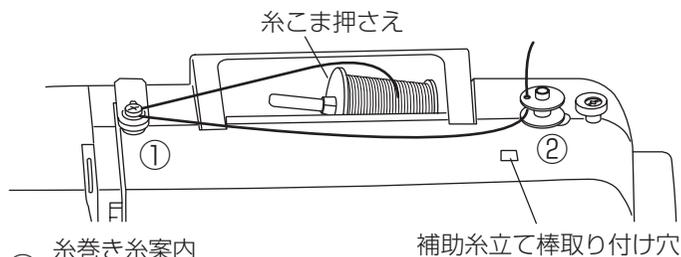
【2】



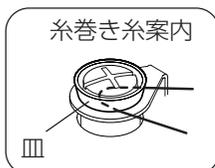
【2】 小さい糸こまのとき

小さい糸こまのときは、糸こま押さえ (小) を使ってください。

★ボビンに糸を巻きます

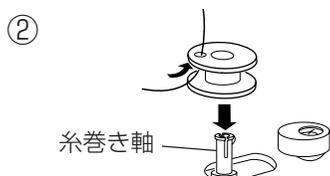


※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にセットしてください。



① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。

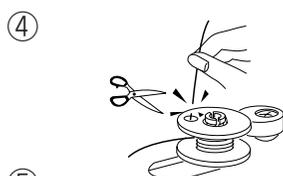
※ 糸を皿の下に確実に入れてください。糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に巻くことができません。



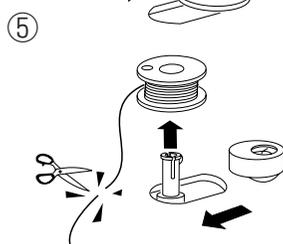
② ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。表示画面に糸巻き位置にセットされたことを示す糸巻き表示が点灯します。



④ 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。

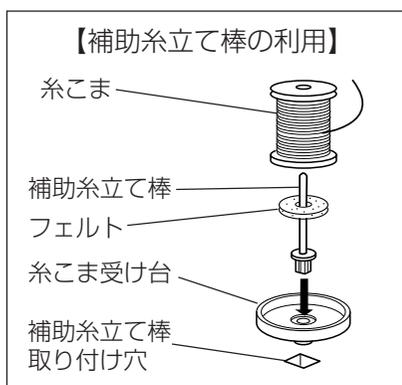


⑤ ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。

ミシンを止めます。糸巻き軸をもどし、糸巻き軸からボビンを外し、糸を切ります。

※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。

※糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約2分間で自動停止します。



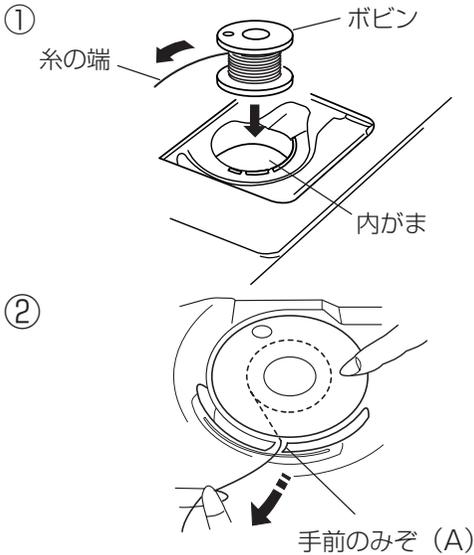
※糸巻きには補助糸立て棒も利用できます。

補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。糸の端は糸こまの右側からうしろに出るようにします。

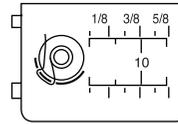
⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。

★ボビンを内がまにセットします



- ① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。
※ 角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。

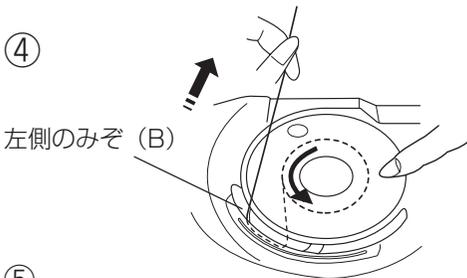


- ② 糸の端を引きながら、手前のみぞ (A) にかけます。

- ③ ※糸をかけるときは、ボビンが回転しないように、指で押さえてください。

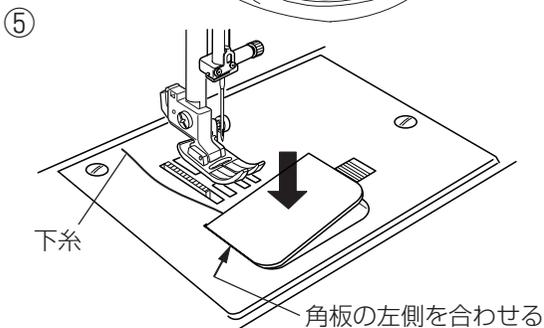


- ③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ (B) のところに出します。



- ④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。

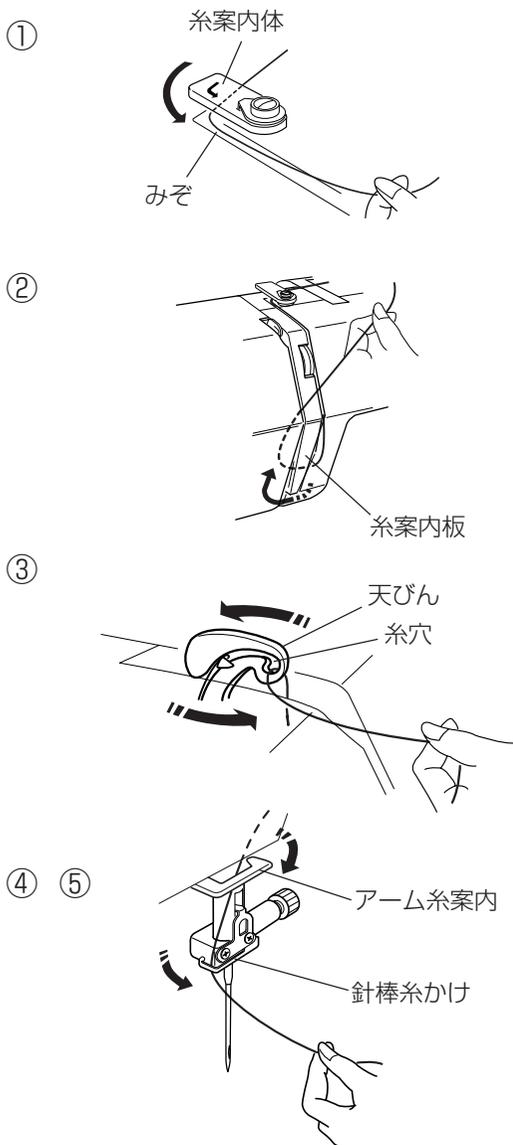
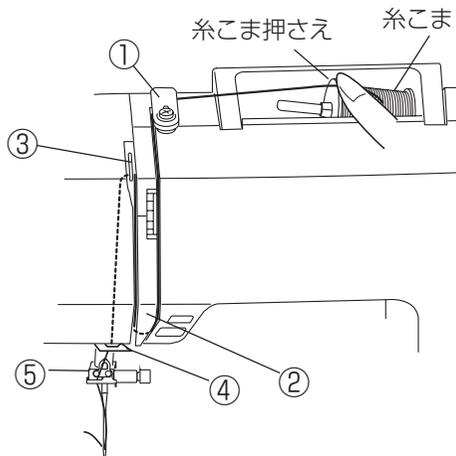
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。



- ⑤ 下糸は 10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

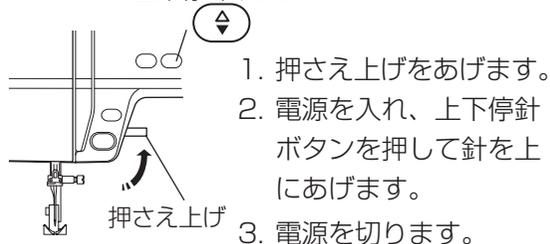
●上糸の準備をしましょう

★上糸のかけ方



【お願い】 はじめに、下記の準備を必ず行ってください。ぬい不良の原因になります。

【準備】 上下停針ボタン



1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源を入れ、上下停針ボタンを押して針を上にあげます。
3. 電源を切ります。

⚠ 注意

準備が終わったら、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

※ 糸こまが外れるのを防ぐため、必ず糸こま押さえを使用してください。

※ 上糸をかけるときは、必ず押さえ上げをあげてかけてください。

押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられないで、ぬい不良の原因になります。

※ 上糸かけは、糸を各部に確実にかけるために、常に右手で糸こま側の糸を押さえながら、左手で強めに引いてかけてください。

※ 糸こまのセット方法は、14ページをごらんください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押えながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こまから出ている糸を押さえ、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

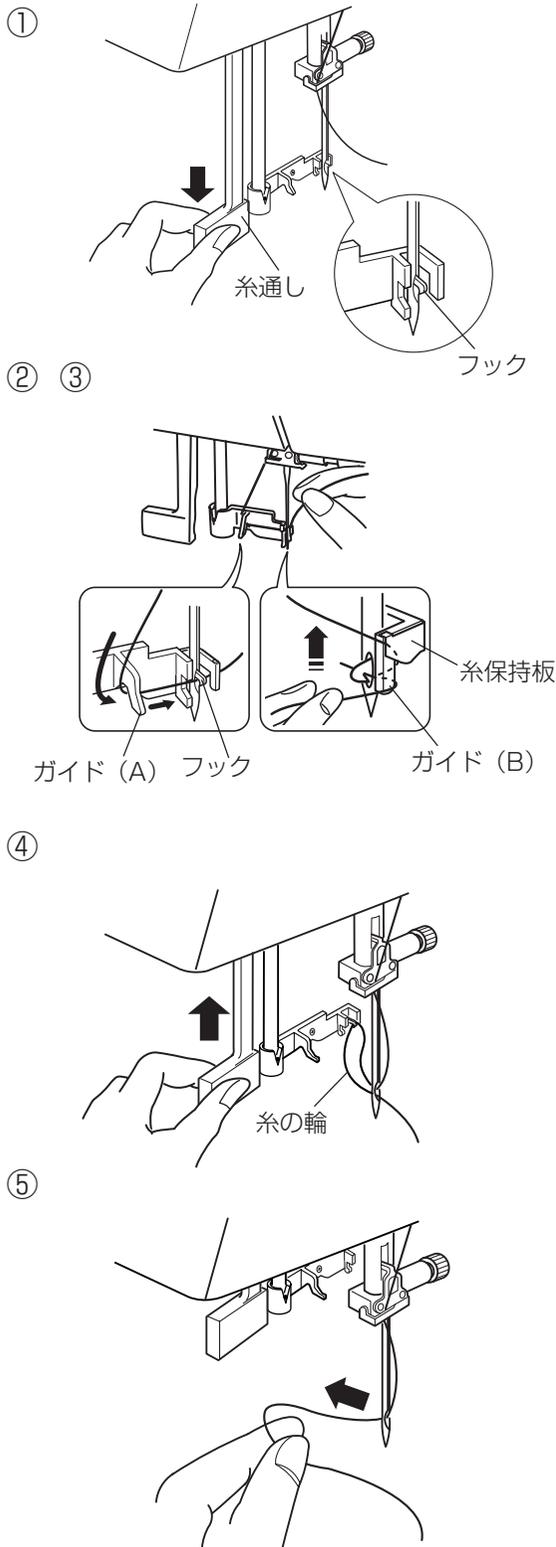
④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

※ 針には糸通しを使って糸を通します。

糸通しの使い方は、18ページをごらんください。

★糸通しの使い方



⚠ 注意

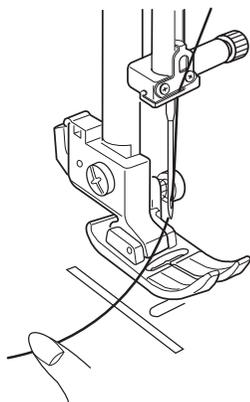
糸通しを使うときには、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

※ 針は 11 番～16 番、糸は 50 番～90 番が使用できます。

- ① 上下停針ボタンで針をあげます。
糸通しを止まるまで引きさげます。
糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。
- ② 糸を左側からガイド (A) とガイド (B) にかかけます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。
- ③ 糸をガイド (B) の右から手前にまわして、そのままガイド (B) の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。
- ④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。
- ⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

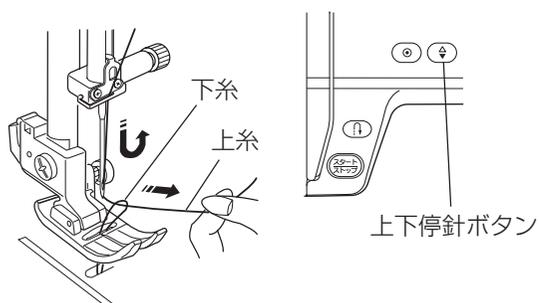
★下糸を引きあげます

①



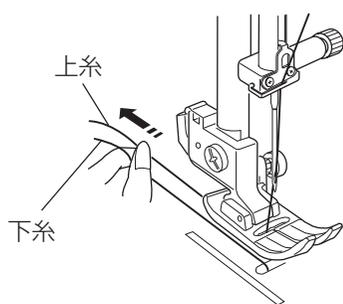
① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②



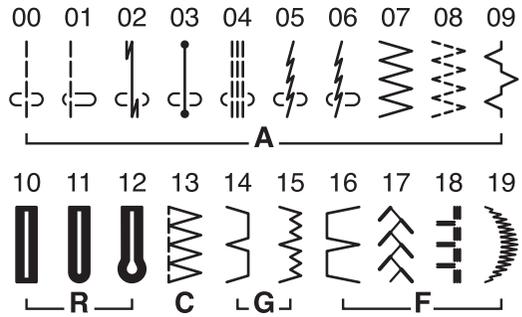
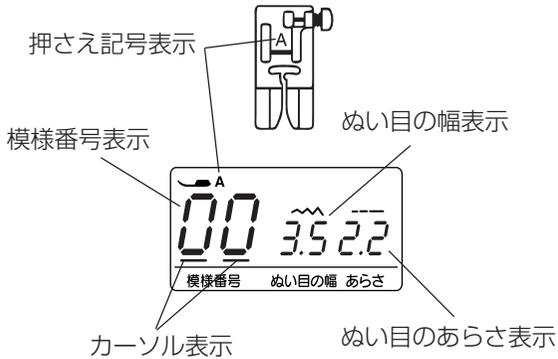
② 電源を入れ、上下停針ボタンを2回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③



③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約10cmほどうしろにそろえて引き出します。

●表示画面の説明



※ 模様の下にあるアルファベットは、模様をぬうときに使用する標準的な押しさへの記号を表示しています。

●模様の選びかた



▲ ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。

① ◀ ▶ ボタンで模様モードを選びます。

② カーソルが2つあるときに、▲ ▼ ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。

③ ◀ ▶ ボタンの ◀ を押して、カーソルを1つにして、▲ ▼ ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあらしの変更は、23、25 ページをごらんください。

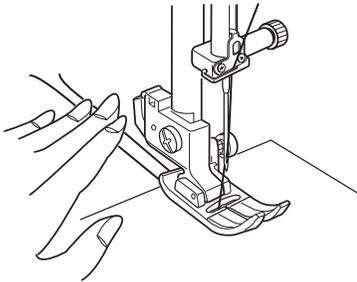
◎実用ぬい

●直線ぬい

ミシンのセット

模様 00 — C/P	表示画面 模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート ←
----------------------	----------------------------------	--------------------	----------------------

★ぬい始め



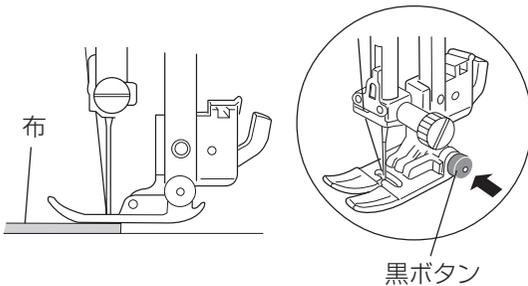
上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はすみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。押さえ上げをさげて、ぬい始めます。
※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様 と自動止めぬい模様 を使う方法があります。(24ページをごらんください。)

R: ボタンホール押さえ

ぬい始めの糸の引き出し方

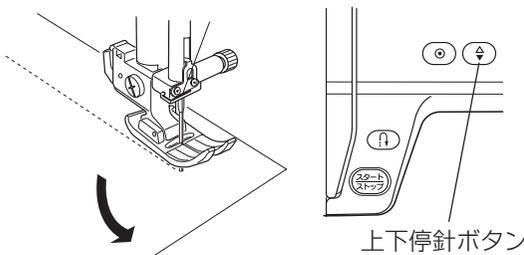
通常は、ぬい始めの上糸と下糸は押さえの向こう側に引き出して、押さえで押さえます。
ただし、F: サテン押さえやR: ボタンホール押さえなど押さえの裏側の前後方向(縦方向)がへこんでいて押さえ面がない押さえは、ぬい始めの糸は横方向に引き出して、押さえで押さえてください。

★厚手の布端のぬい始め



- ① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。
- ② 黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。押さえが完全に布の上にとると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

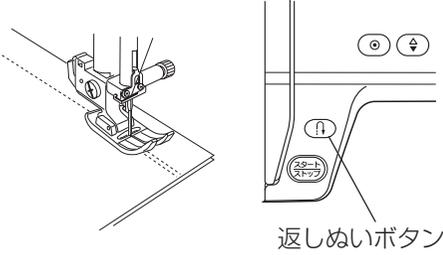
★ぬい方向の変更



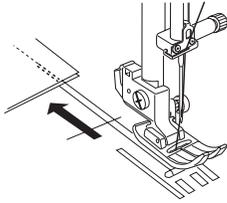
ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わり

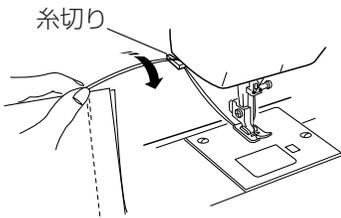
【1】



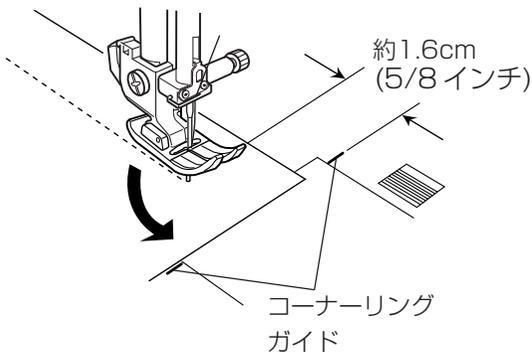
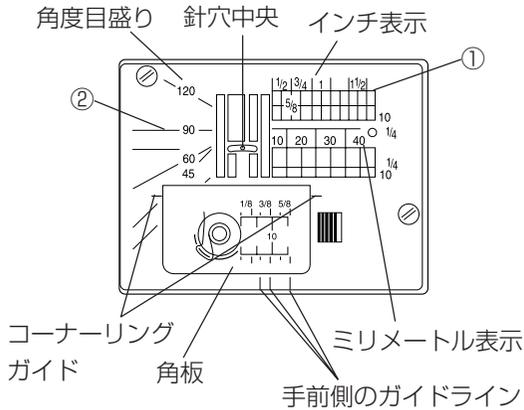
【2】



【3】



●針板ガイドラインの利用



【1】 返しぬい

返しぬいボタンを押しながら、数針返しぬいをします。

※ぬい終わりのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様⁰²と自動止めぬい模様⁰³を使う方法があります。(24ページをごらんください。)

【2】 布の引き出し方

針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】 糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

針板および角板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドラインを表示しています。

① 針板右側には、布端を合わせてぬうためのガイドラインを表示しています。

ガイドラインの数字は、針穴中央(ぬい位置)からの距離を「ミリメートル」と「インチ」で表示していて、布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

※ 針板の手前側にも、針穴中央(ぬい位置)からの距離0.6cm(1/4インチ)、0.9cm(3/8インチ)、1.6cm(5/8インチ)のガイドラインを表示しています。

② 針板左側には、パッチワークのピース作りに使う角度目盛りを表示しています。

※ パッチワーク布(ピース)の形状により針板の角度目盛りに合わせると印なしでぬえます。

【コーナーリングガイドの利用】

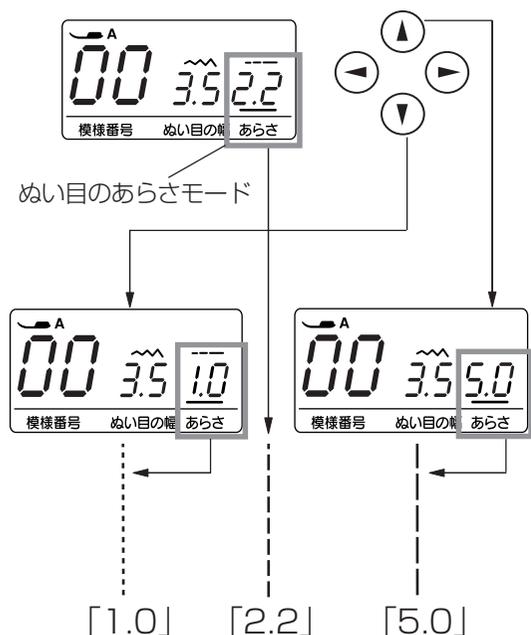
布端から1.6cmのところまで直角にぬい方向をかえるときに使います。

① 布端がコーナーリングガイドのところきたら、ミシンを止め、はずみ車をまわして針を布にさします。

② 押さえをあげ、布を回転させてガイドラインの1.6cm(5/8インチ)に合わせます。

③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

●ぬい目のあらしをかえるとき



◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらしモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は2.2です。

※0.0～5.0のはんいでかえることができます。

（0.0から1.0に、1.0から1.5に、1.5から1.8にかえることができます。1.8から3.0まで0.2ずつかえることができ、また3.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）

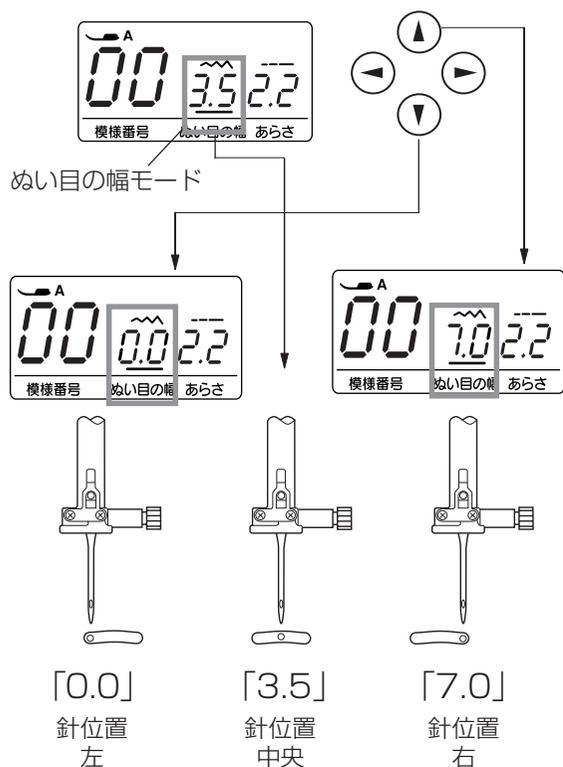
※ぬい目のあらしは、布や糸によりかわりますので、画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細くなります。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらかくなります。

※返しぬいのぬい目あらしは、表示数値より小さくなります。

●針位置をかえるとき



00 01 02 03 04

※直線状のぬい目、模様  は、針位置をかえることができます。

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は3.5です。

※模様01の初期値（購入時のセット状態）は0.5です。

※0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

※画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。

画面の数値は直線状模様の場合は、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。

「▼ ボタン」を押すと表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。

「▲ ボタン」を押すと表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

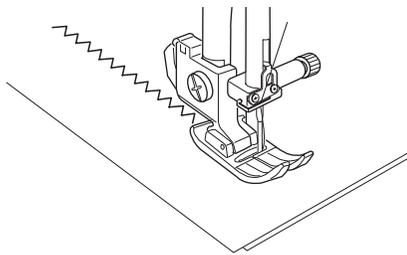
●直線状のぬい目

ミシンのセット	用途
<p>地ぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>00 01</p>    <p>A: 基本押さえ</p>    	<p>地ぬいや、ファスナー付けなどに利用します。</p> <p>※模様  は、端ぬいに利用します。</p>
<p>自動返しぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>02</p>  <p>A: 基本押さえ</p>   	<p>しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。</p> <p>ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。数針返しぬいをして自動的に止まります。</p>
<p>自動止めぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>03</p>  <p>A: 基本押さえ</p>   	<p>目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。</p> <p>ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。止めぬいをして自動的に止まります。</p>
<p>三重ぬい</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>04</p>  <p>A: 基本押さえ</p>   	<p>伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに利用します。</p>
<p>伸縮ぬい (ニットステッチ)</p> <p>模様 押さえ 糸調子ダイヤル</p> <p>05 06</p>   <p>A: 基本押さえ</p>    	<p>布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。</p> <p>※模様  は、うす地のニット素材に利用します。</p>

●ジグザグぬい

ミシンのセット

模様 07 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ  A: 基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	--	---



ジグザグぬい（模様07）で「A 押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目のあさを調節してご使用ください。

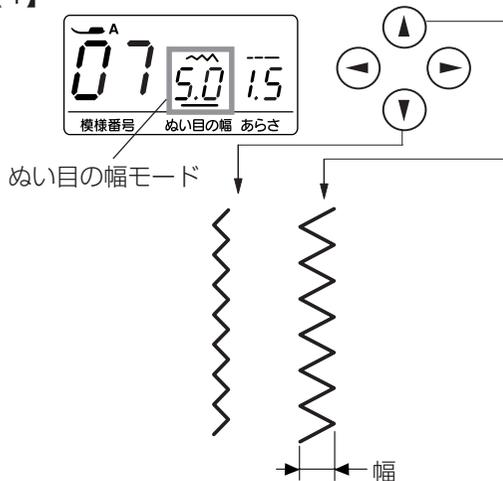
（薄地の場合で、ぬい目の幅3.0、ぬい目のあさ2.0が目安です。）

ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろいろなぬい方ができます。

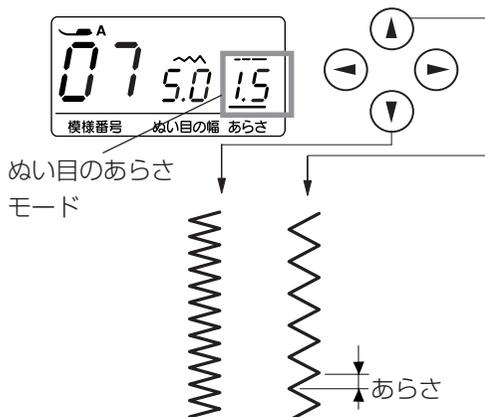
※ 伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の幅・あさをかえるとき

【1】



【2】



【1】ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は5.0です。

※ 0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

※ 画面の数値は、目安としてミリメートルで表示しています。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、幅が広がります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、幅がせまくなります。

【2】ぬい目のあさをかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は1.5です。

※ 0.2～5.0のはんいでかえることができます。

（0.2～1.0まで0.1ずつ、1.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）

※ 画面の数値は、目安としてミリメートルで表示しています。

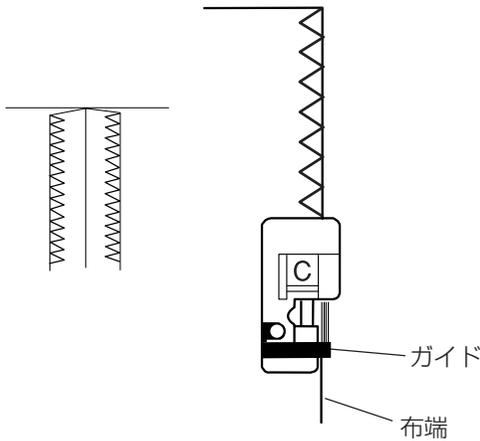
「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、あさがあらかります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、あさが細かくなります。

●たち目かがり

ミシンのセット

<p>模様</p> <p>07</p> 	<p>表示画面</p>  <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>押さえ</p>  <p>A: 基本押さえ または C: たち目かがり押さえ</p>	<p>糸調子ダイヤル</p>  <p>オート ←</p>
---	---	---	---



布端をたち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。

布端のほつれ止めとして広く利用します。

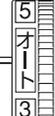
※たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

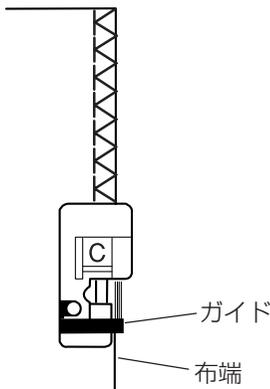
⚠ 注意

たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は4.5以下では使用しないでください。
針が針金にあたり、けがの原因になります。

「A押さえ」を使用する場合は、試しぬいをして、ぬい縮みがでないよう、ぬい目の幅やぬい目のあさを調節して、ご使用ください。

ミシンのセット

<p>模様</p> <p>13</p> 	<p>表示画面</p>  <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>押さえ</p>  <p>C: たち目かがり押さえ</p>	<p>糸調子ダイヤル</p>  <p>オート ←</p>
---	---	--	---



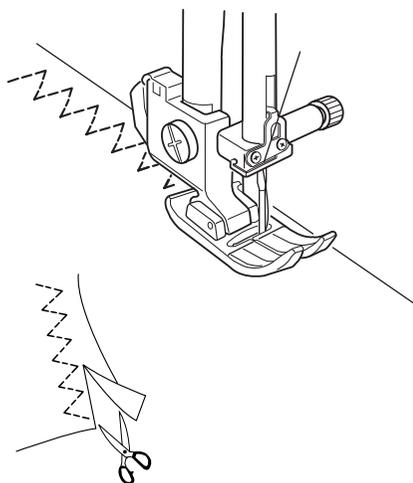
地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに利用します。

布端をガイドにあててぬいます。

※ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

●トリコットぬい（三点ジグザグ）

ミシンのセット			
模様 08 	表示画面  <small>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</small>	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル オート 



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、
 布端の反り防止などに利用します。
 ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところ
 をぬい目の近くで切り落とします。

●ボタンホール

★ボタンホールの種類

10 	◎ボックス（両止め） 普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
11 	◎ラウンド 普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。
12 	◎キーホール（鳩目穴） 普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

★ボタンホール 10（ボックス）のぬい

ミシンのセット

模様



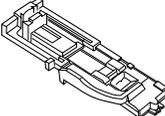
10

表示画面



模様番号 / ぬい目の幅 / あらさ

押さえ



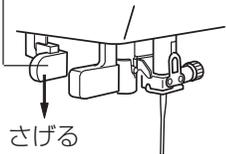
R: ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル



オート

ボタンホール切りかえレバー



さげる

ボタンホール切りかえレバー表示

※ボタンホールを選ぶと、表示画面にボタンホール切りかえレバー表示されます。

ボタンホールをぬうときには、ボタンホール切りかえレバーをさげてぬいます。

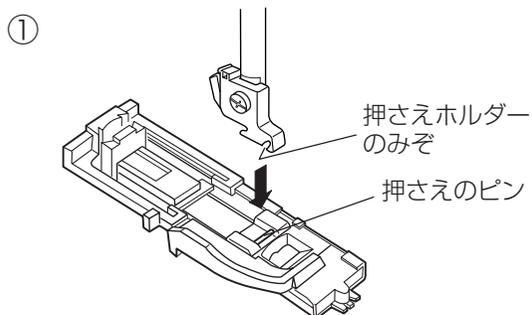
※ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。（29ページをごらんください。）

※ボタンの直径が 1.0～2.5cm までのボタンホールができます。

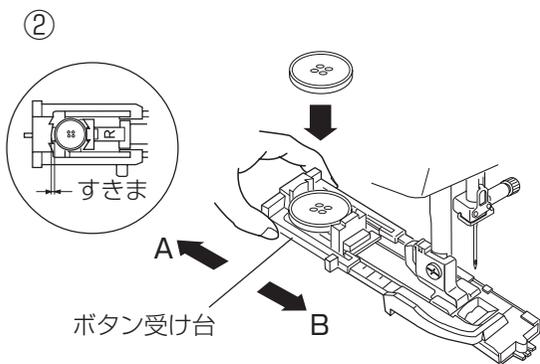
※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。

※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

※布のボタンホールぬい位置にマークを付けてください。

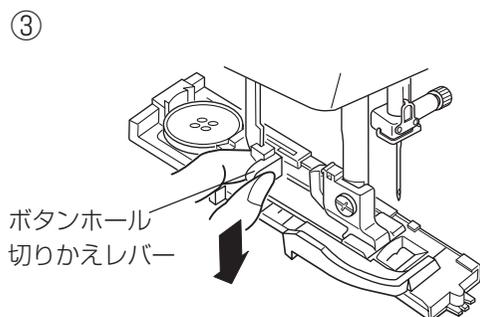


① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

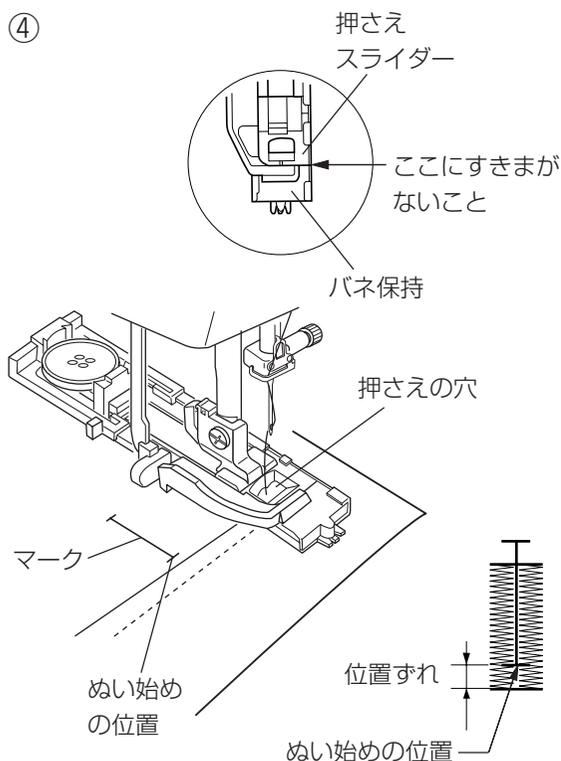


② ボタン受け台をA方向に引き、ボタンをのせてB方向にもどし、はさみます。

※ ボタン受け台とボタンのあいだにすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

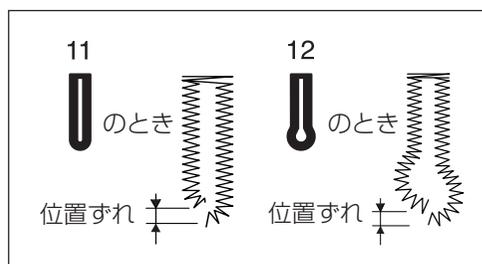


③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引き上げます。



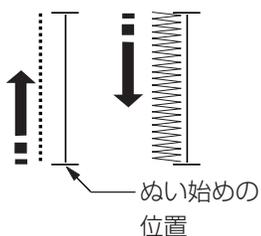
④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえるの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。ぬい始めの位置ずれになります。

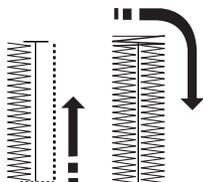


⑤

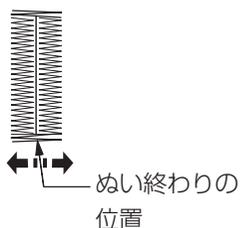
【1】



【2】



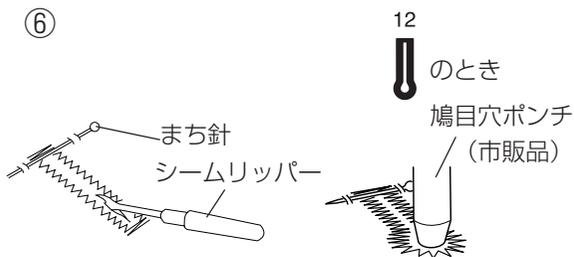
【3】



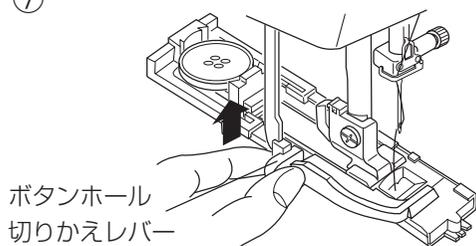
ボタンホール切りかえレバー表示 (点滅)



⑥



⑦



⑤ ミシンをスタートしてぬいます。

[ぬっていく順序]

【1】 第1ステップ 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

【2】 第2ステップ 下ぬいのあと、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

【3】 第3ステップ かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

★ボタンホール重ねぬい

ボリューム感のあるボタンホールができます。一度目のボタンホールをぬい終わったら押さえ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。自動的に重ねぬいをします。

ぬい途中で模様番号が **6L** と表示 (2~3秒) され、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅したとき

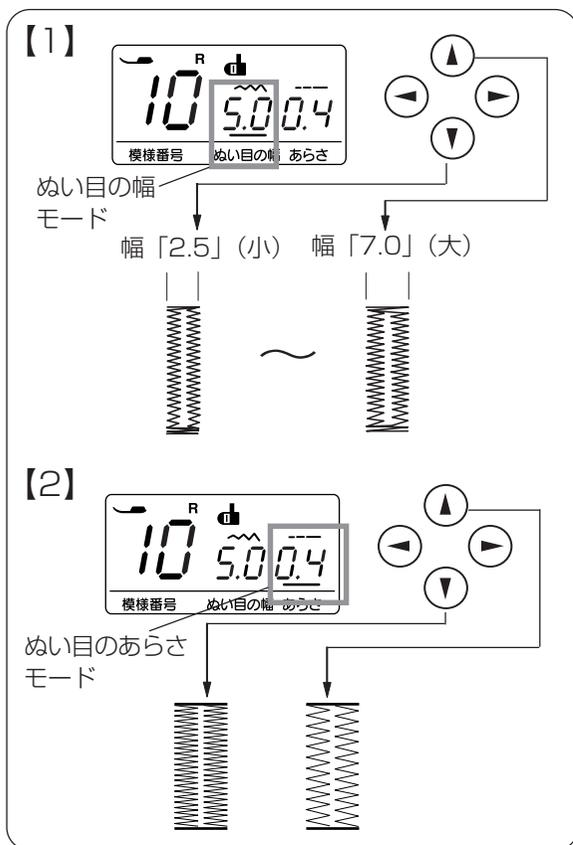
ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを0.5cmぬったときに表示します。ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。

⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてから、シームリッパーで切り開きます。

⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい押しあげてもどします。

★ぬい目の幅・あらさをかえるとき



【1】ぬい目の幅をかえるとき

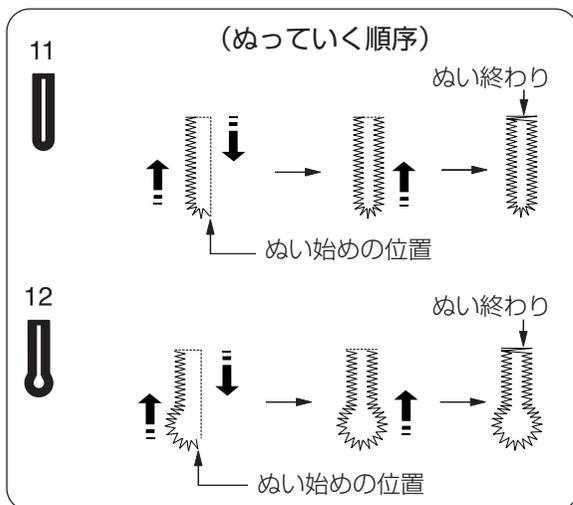
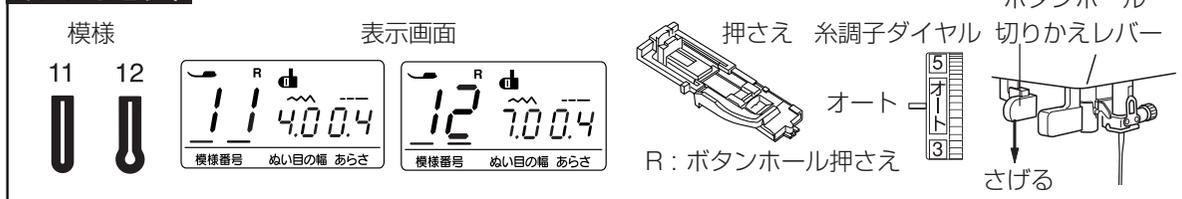
◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は5.0です。
「▲ ボタン」、「▼ ボタン」を押すと、ボタンホール幅がかわります。
※ 2.5～7.0のはんいで0.5 ずつかえることができます。

【2】ぬい目のあらさをかえるとき

◀ ▶ ボタンで、ぬい目のあらさモードを選びます。
初期値（購入時のセット状態）は0.4です。
「▲ ボタン」、「▼ ボタン」を押すと、ぬい目のあらさがかわります。
※ 0.3～0.8のはんいで0.1 ずつかえることができます。

★ボタンホール 11、12 のぬい

ミシンのセット



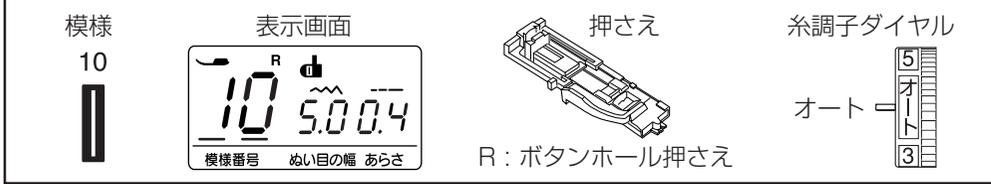
※ ぬい方はボタンホール 10（ボックス）と同じです。
（28～30 ページをごらんください。）

※ 模様 11 のぬい目の幅は 2.5～5.5 のはんいで0.5 ずつかえることができます。
模様 12 のぬい目の幅は 5.5～7.0 のはんいで0.5 ずつかえることができます。

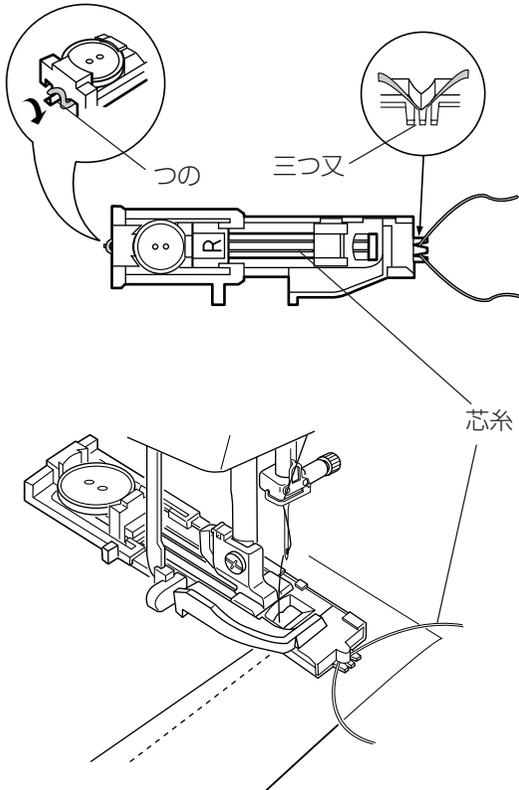
ぬい目のあらさは、両方とも0.3～0.8のはんいで0.1 ずつかえることができます。

●芯入りボタンホール

ミシンのセット



① ②

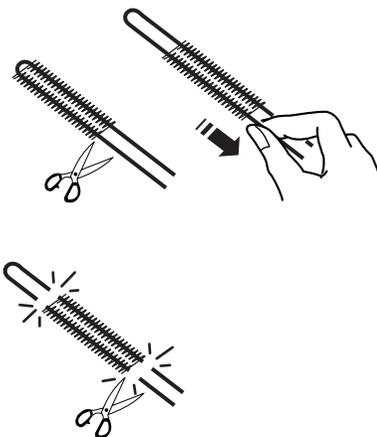


① 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール（ボックス）の手順と同じようにぬいます。

※ 28～30ページをごらんください。

③



③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ めい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。

※ 穴のあけ方は、30ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けないときは、前後の芯糸を切ります。

●ボタン付け

ミシンのセット

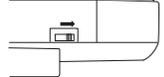
模様
07




押さえ

F: サテン押さえ

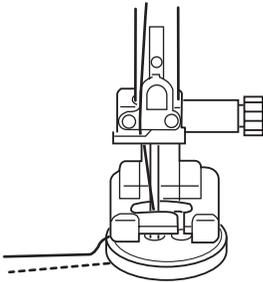
糸調子ダイヤル
オート 

ドロップつまみ

(送り歯をさげます。)
(10ページ参照)

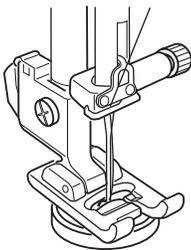
【準備】

- (1) 送り歯をさげます。
 - (2) めい目の幅をボタン穴の間かくに合わせ、調節します。
- ※ めい始めに自動的に止めめいを入れるために、下記【めい】の手順①からの操作を行うときは、必ず模様  を選んだ直後から行ってください。模様  を一度でもぬったあとに行うと、めい始めに止めめいが入りません。

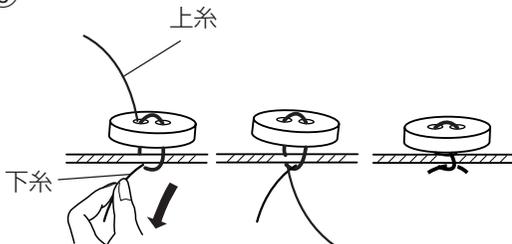
① ②



③ ④ ⑤



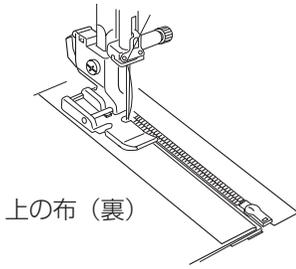
⑥



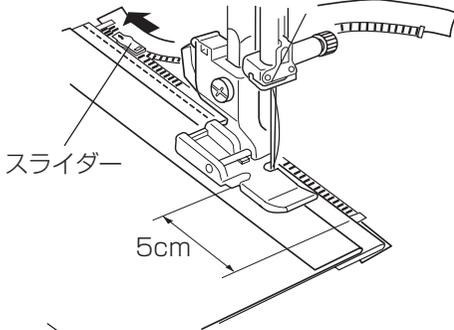
【めい】

- ① はずみ車を手前にまわして針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。
 - ② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。
- ※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針折れる危険があります。
- ③ はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。
 - ④ スピードコントロールつまみを(ゆっくり)にセットします。
 - ⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。
- ※ めい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。
- ⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。
めい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
- ※ めい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

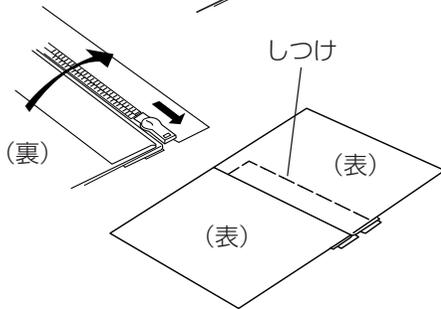
②



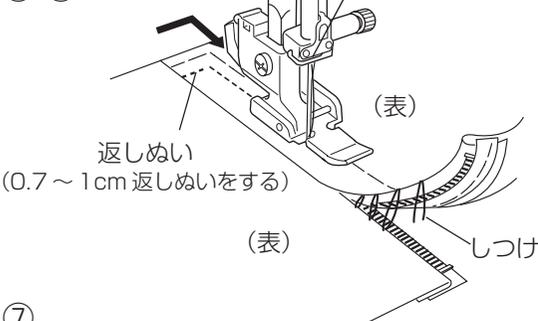
③



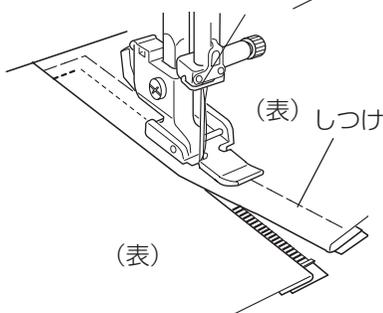
④



⑤ ⑥



⑦



② 押さえホルダーを押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。

押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④ ファスナーをとじ、スライダーを上にも倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。

かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけはA基本押さえを使用します。しつけはほつきやすいように、ぬい目のあらしさを5.0、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。

しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」にもどします。

⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。

上の布のあき止まりを0.7~1cmほど返しぬいをしてから、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。

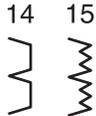
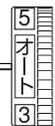
⑥ ファスナーの上側を5cmくらい残したところで止め、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほつきま

す。

⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほつきま

●まつりぬい

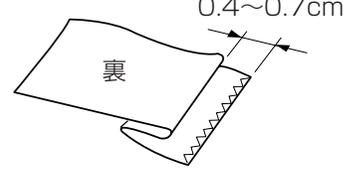
ミシンのセット

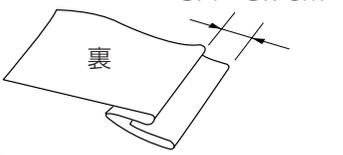
模様 14 15 	表示画面  模様番号 ぬい目の幅 あらさ	押さえ 	糸調子ダイヤル オート 
--	---	--	--

G: まつりぬい押さえ

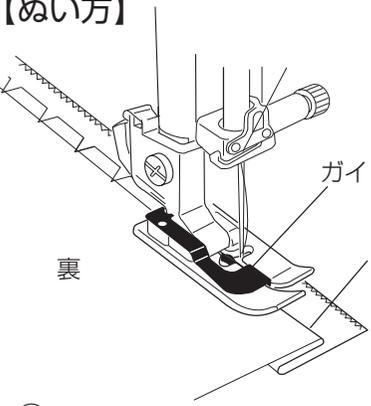
※模様15は、伸縮性のある布をぬうときに利用します。

【布の折り方】

厚い布の場合


うすい布、普通の布の場合


【ぬい方】



裏

ガイド

折り山

表

①

②

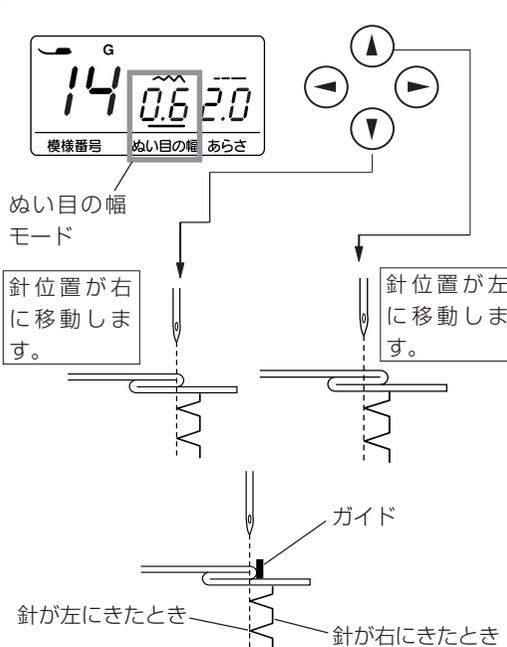
布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4～0.7cmほどはみ出させます。

① ガイドに折り山を合わせ、針が折り山から外れないように針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布を表に戻します。

※ 左側における針が必要以上に折り山にかかりすぎると表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにせんので注意してください。

【針位置の調節】



ぬい目の幅モード

針位置が右に移動します。

針位置が左に移動します。

ガイド

針が左にきたとき

針が右にきたとき

◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は0.6です。

※表示0.6はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。

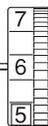
※模様14、15は、ぬい目の幅は変化せず、模様（針位置）が左右に移動します。

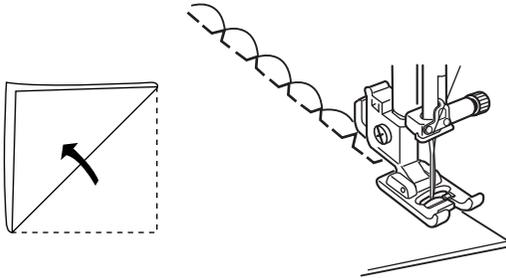
針が折り山にかからない場合「▲ ボタン」を押して針位置を左に移動させます。

針が折り山にかかりすぎる場合「▼ ボタン」を押して針位置を右に移動させます。

● シェルタック

ミシンのセット

模様 16 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル 6~8 
---	---	---	---



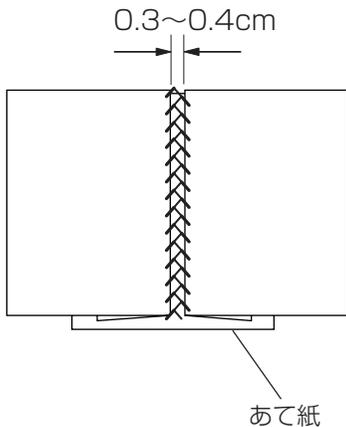
布をバイヤスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるよう
にしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

※糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山が
きれいになるように調節します。

● ファゴティング

ミシンのセット

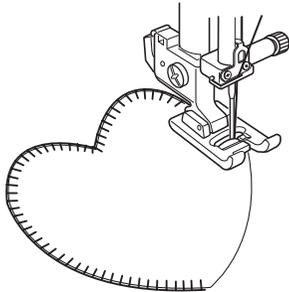
模様 17 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 
---	---	---	---



布端と布端の間かくを0.3~0.4cmあけて、下
にあて紙をします。
布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。
最後にあて紙をとります。

●アップリケ

ミシンのセット			
模様 18 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
針をアップリケ布の外側に落とし、アップリケ布のふちをぬっていきます。

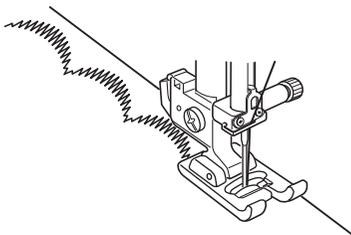
※カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を下位置にします。

押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。

●スカラップ

ミシンのセット			
模様 19 	表示画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル オート 

①



① 布の表から、布端を1 cmくらい残してぬいます。

※ 必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

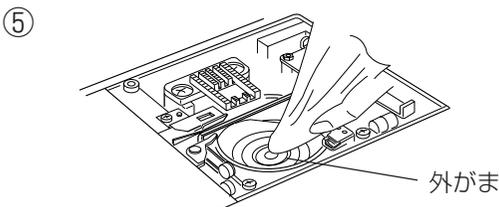
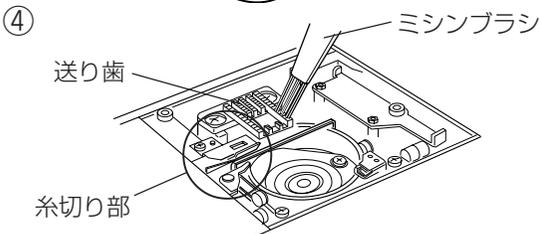
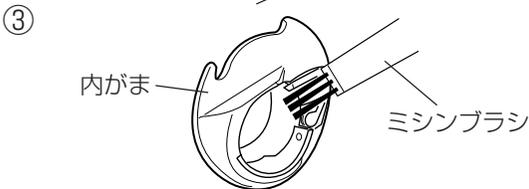
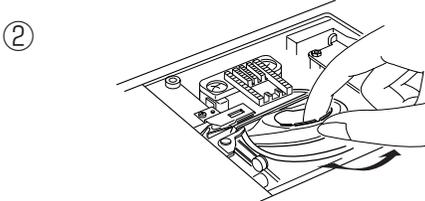
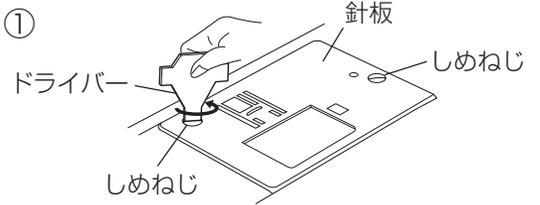
②



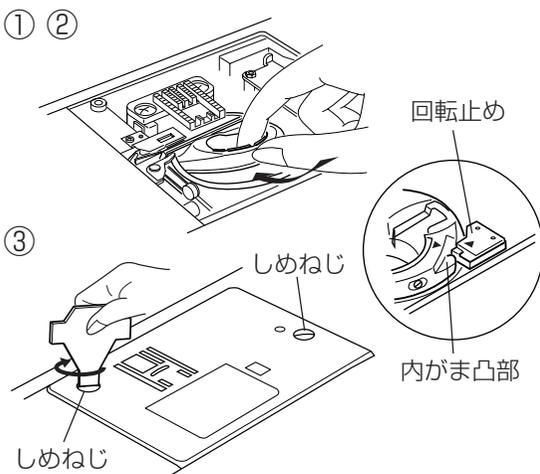
② 糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除



●内がまと針板の組み付け



⚠ 注意

- お手入れのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。感電・火災・けがの原因になります。

- ※ 針と押さえホルダーを外します。
- ※ ボビンを取り出します。
- ① しめねじを2個外し、針板を外します。
- ② 内がまの手前を上へ引きながら外します。
- ③ 内がまを、ミシンブラシなどで掃除し布切れで軽くふきます。
- ④ 送り歯のごみを、ミシンブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- ※ 糸切り部のごみもミシンブラシで落としてください。
- ⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

- ① 内がまを差し込みます。
- ② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- ③ ボビンを入れ、針板を取り付け、しめねじ2個をしっかりとめます。
- ※ お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえホルダーを取り付けてください。

◎こんな表示が出た場合

●表示画面の対処方法

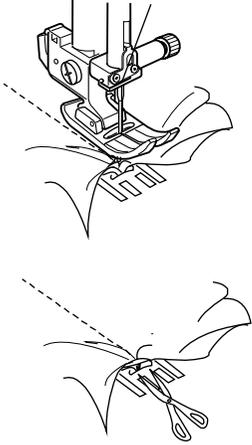
表 示	対 処 方 法
 <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップボタンを押したときは、フットコントローラー表示が点滅します。</p> <p>スタート/ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。</p>
 <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>押さえ上げをさげないで、スタート/ストップボタンまたはフットコントローラーでミシンをスタートさせようとしたとき、および返しぬいボタンまたは糸切りボタンを押したときは、押さえ表示が点滅し、安全のためにミシンが動きません。</p> <p>押さえ上げをさげて、操作を行います。</p>
 <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。</p> <p>ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。</p>
 <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。</p> <p>糸巻き軸をもとの位置にもどすまで表示されます。</p>
 <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後15秒間のあいだに再スタートしようとする则表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。 2. 糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。電源を切り不要な糸を取り除いてください。
 <p>模様番号 ぬい目の幅 あらさ</p>	<p>ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。</p> <p>電源を切り、針板を外し、かまや送り歯、糸切りメスに糸がからんでいないか確認します。</p> <p>直らない場合には、電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。</p>

●ブザー音の種類

ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

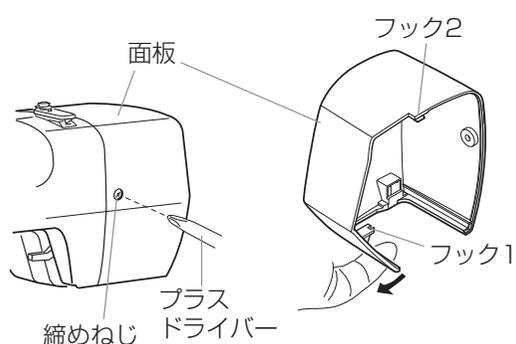
◎ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。糸調子皿から上糸がはずれている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに、上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>17 ページ参照</p> <p>12 ページ参照 13 ページ参照 13 ページ参照 21 ページ参照</p> <p>22 ページ参照 13 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。 	<p>16 ページ参照 40 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する。 巻く速度を速くする。</p>
針がおれる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様にあった押さえを使用していない。 	<p>13 ページ参照 13 ページ参照 22 ページ参照 13 ページ参照</p> <p>押さえを交換する。</p>
ぬい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針（オプション）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>13 ページ参照 13 ページ参照 13 ページ参照</p> <p>17 ページ参照 針を交換する。</p>
ぬい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる 	<p>12 ページ参照 16、17 ページ参照</p> <p>13 ページ参照</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>40 ページ参照</p> <p>ぬい目をあらくする。 10 ページ参照</p>
ぬい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>12 ページ参照 13 ページ参照</p>
ぬい目に下糸が出る	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 5. ジャノメのボビンを使用していない 	<p>16 ページ参照 14 ページ参照 17 ページ参照 12 ページ参照</p> <p>ジャンメのボビンを使用する</p>
ぬい始めの糸がらみ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえていない。 	<p>17 ページ参照 21 ページ参照</p>

調子が悪い場合	その原因	直し方
うすい布、伸縮性の布の食い込み	1. 布に対して針と糸があっていない。 2. 左針位置でぬっていない。	13 ページ参照 左針位置でぬう
布裏で糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 	【からまっている糸の取り方】 1 電源スイッチを切る。 2 押さえ上げと針を上げ、ハサミで布裏の糸を切る。 3 針板を外す。(40 ページ参照) 4 ボビン、内がまを外し、からまっている糸を切る。(14、40 ページ参照) 5 ボビン、内がま、針板を取り付ける。(16、40 ページ参照) 6 上糸をかけ直す。(17 ページ参照)
ボタンホールがうまくいかない	1. ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 3. 布に対してぬい目のあらしさが合っていない。	29 ページ参照 28 ページ参照 31 ページ参照
上糸が抜ける	1. 上糸の通し方がまちがっている。 2. ぬい始めに布に針をさしていない。	17 ページ参照 21 ページ参照
ぬい終わりに下糸が二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して、針を上にあげる。
かまに糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	17 ページ参照 かまの交換 40 ページ参照
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	17 ページ参照 17 ページ参照
フットコントローラーを踏み込んでも動かない	1. 画面表示にフットコントローラーの表示がでないうちにフットコントローラーを踏んだ。 	フットコントローラー表示がされたあとにフットコントローラーを踏む。
糸通しができない	1. 針と天びんが上にあがっていない。	18 ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
ミシンがまわらない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。 (糸巻状態になっている) 4. フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。 5. 天びん内部に糸がからんでいる。	6 ページ参照 40 ページ参照 15 ページ参照 7 ページ参照 面板の取り外し、 取り付け方を参照
音が高い	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	40 ページ参照 40 ページ参照
模様がかすれる	1. 模様が正しく調整されていない。	模様の形の整え方を参照

【面板の取り外し、取り付け方】



(外し方)

- 1 電源スイッチを切ります。
 - 2 プラスドライバーで締めねじを外します。
(プラスドライバーは付属には含まれていません。)
- ※面板を外すとき、面板の下側を手前に引き、左にスライドさせ、フック1を外したあと、フック2を外します。

(付け方)

- 1 フック2を取り付けたあと、面板の下側を手前に引き、右にスライドさせ、フック1を取り付け、締めねじで固定します。
- ※ぬいのときは必ず面板を取り付けてください。

【模様の形の整え方】



布の種類などによっては、模様の形がかすれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調整してください。(補助テーブルを外します。5 ページ参照)

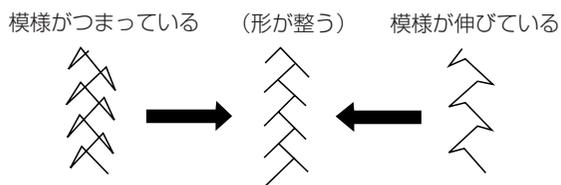
例【模様 ¹⁷ のとき】

(形が整う)

模様がつまっているとき 送り調節ねじを「+」の方向にまわします。

(形が整う)

模様が伸びているとき 送り調節ねじを「-」の方向にまわします。



仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	35W
外形寸法	幅406mm×奥行174mm×高さ298mm
質量	6.0kg（本体）
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分700針 フットコントローラー使用時 毎分820針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地

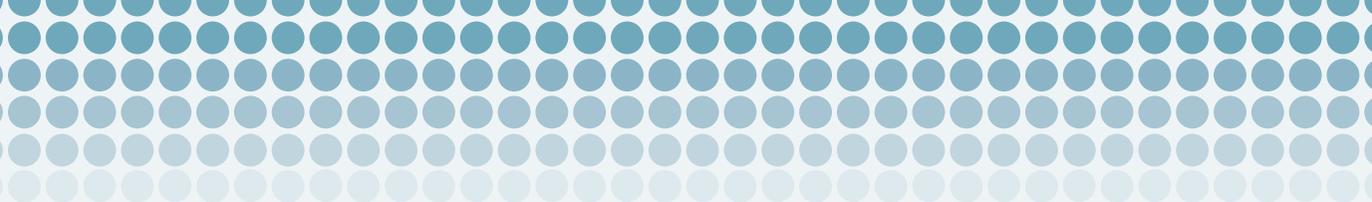
お客様相談室 TEL. 0120-026-557（フリーダイヤル）

042-661-2600

受付…平日 9:00～12:00、13:00～17:00

（土・日・祝日・年末年始を除く）

メールでのお問い合わせは、ホームページ <http://www.janome.co.jp>
[問合せフォーム](#)をご利用ください。



808-850-942

